

New N o g a t a 2023、11、28

直方ミニバスケットボールクラブだより

共育コラム

子どもは、これからの時代を生きる

4月（スタート時）から数えると8か月が経過し、後半に入っています。スタート時点は個の力量で勝負するバスケットでしたが、子どもたちが切磋琢磨するなかで個々の力量が高まり、今は個と個のかみ合わせでプレーをつくるバスケットができるようになってきました。バスケットのセオリーに則った原則的なプレーもありますが、子どもたち自身が話し合っつくりあげたプレーもあります。それがうまくはまり表現できたときの心地よさを感じられるようになってきています。ここまでくると、競技としてのバスケットのおもしろさを実感することができるようになります。私たちおとなが見ている、思わず“おう”“うまい”など、周囲から声が上がるとようなプレーも見られるようになっていて、私たちも楽しませてくれます。

ここに至るには、チームメイトとの練習の積み重ねが必要で、そのことによって、互いの気持ちや考え、そしてタイミングなど意気が合うようになってきます。

こうして深まったつながりによって、生涯にわたる関係が育まれることもあります。今なお、体育館に寄って後輩の練習相手やアドバイスをしてくれる多くのOB、高校、大学、社会人になっても機会があれば体育館に立ち寄ってくれています。成人しても互いに連絡を取り合い、つながりは続いているケースも少なくありません。きっかけはバスケットですが、成人すればバスケットの技量ではなく、その時々自分の生き方（姿）で交流することになります。その姿に学ばされることもあります。そういった「つながり」をもち続けていることを、本当にうれしく思っています。

先日もコーチの取り計らいで、すでに30歳代後半から40歳になっている教え子と再会することができました。小学校時代に別れて以来の再会だった子は30年ぶりということになります。ほかは、以前は頻繁に会う機会があった子や、最近になって会う機会があった子もいました。今だから話せることが双方にあります。それを交わすのが楽しみでもあり、私にとっての学びでもあります。

どの子も、順風満帆に今日に至っているわけではありません。特に学校教育を終えた後、公私ともに社会の荒波にもまれながら、さまざまな経験を積んで今日に至っています。人間誰もが、そのようなプロセスを経験します。何事もなく人生が過行くなんていうことはないでしょう。生きていては、いろんなことがあります。それをどのように乗り越

えてきたか、そこにも学ぶことがあります。さまざまなケースがありますが、つまりきからの立ち上がりには共通しているのは、つながっている（見守り、励まし、応援してくれる）人がいるということです。個々の力はさまざまですし、個人の力には限界もあります。しかし、苦しい時にこそ、自分につながってくれている人がいるということが、いかに大きな力、支えになっているかということが、教え子たちの話からよくわかります。そんな人とつながる力を育むことを、子ども時代に豊かに体験的に学んでいる子は、つまりいても必ず立ち上がることができます。個人（自分）でがんばることしか経験していない子は、つまりくと、そのままつぶれてしまうこともあります。

時折お伝えしているように、社会の変化にともない教育は確実に変わり始めています。社会変化のスピードが急速に早まっています。今、子どもたちが、学校で得ている知識やスキルは、10年後社会に出ていく時には、すでに役に立たないものになっているとも言われます。必要な力は、想像力、発想力、創造性、主体性、対話力、つながり力…。

詳しくは、また機会があれば、お示ししますが、これまでの「知識・理解」優先、つまり結果の学力から、「思考・判断」「関心・意欲」、つまり過程（プロセス）の学力へと評価の観点が変わっていきます。子どもがやりたいことを見つけ、いきいきとその活動をすることによって生活意欲や学習意欲を増し、自律と自尊の力を育むことによって自分を知り、自分の将来を大切に考えるようになり、自分で自分のことを考え判断し決めることができるようになります。

子ども時代に、どんな体験が必要か、どんな学びが必要か、社会が大きく変わっている今だからこそ、考えなければならないと思います。私たちおとなが生きてきた時代とは大きく異なる時代を子どもたちは生きています。そして、この子たちが成人する10年後は、もっと様変わりした社会になっていることは容易に想像ができます。私たちの経験をそのまま、今の子どもにあてはめて、画一的な見方で評価することは危険です。個性、多様性が評価をされる時代を生きていく子どもたちです。そのために私たちおとなが果たさなければならない役割は何か、過去の自身の経験則のみをものさしにせず、子どもとともに学び、考え、子どもが意欲的にがんばれるものをサポートし、そこから学びの広がりや深まりを求めていくことが重要と考えます。

子どもは本当にやりたいことを見つけ、いきいきと活動することによって変わる(成長する)

クラブが終わった後の立ち話で、一人の子が、次のようなことを話してくれます。

前までは、何もしたいことがなく、毎日ゲームばかりしてました。土日などは、朝から晩までしてました。でも今はあまりしません。バスケットに出会えて、本当にしたいものに出会えて変わりました。よかったです。今は、授業中もちゃんと話を聞いて勉強もするようになったので、少しずつわかるようになってきました。ゲームは好きでしたけど、本当にやりたいことだったかという、そういうものではありませんでした。することがなく暇なので、ゲームで時間をつぶしてた感じでした。やればおもしろいので、ずっとやってました。